

第1回 平成22年04月15日(木)

第3期の一流塾が開塾しました。塾生の顔ぶれは起業者12名、二世・三世11名、経営幹部等21名の計44名、平均年齢は44.3歳で、様々な業種、企業規模の会社から志の高い経営者、経営幹部が集いました。



冒頭、一柳塾長から、「出でよ、志ある経営者たち」と題する基調講演が行われ、当塾で学んで欲しいこととして、「三方よし」、「全体最適対応力」、「グローバルな視点」、「人間力」の4点を上げ、政・官・財の一流の“ホンモノ”の講師陣に触れ、積極的に何かを盗みとり、自分を高めていって欲しいと、塾生を激励しました。



開塾式では、当塾特別顧問の塩川正十郎氏(東洋大学総長、元財務大臣)、講師の西川善文氏(株三井住友銀行顧問)、白石真澄氏(関西大学政策創造学部教授)にご出席頂き、入塾の祝辞と講話を頂きました。塩川氏は、外交政策に触れ、日本は自主独立の国として安全保障の基本的な方針を定め、国際社会において自国の主張をきちんと述べなければならない。そのためには、一人一人がこの問題を勉強し、考えを持つ必要があると、述べられました。西川氏は、経営は芸術であり、経営者はいわば指揮者である。「塾生の皆さんはこの塾で、「既成概念にとらわれない柔軟な発想」、「グローバルな視野」、「イノベーションの原動力になること」、の3点を身につけて欲しい、と激励しました。白石氏は、日本が直面している少子高齢化問題の要点をご紹介頂き、これからは”女老外”(女性、老人、外国人)を如何に活用できるかがポイントである、との自説をご披露頂きました。

その後の懇親会では、塩川特別顧問の乾杯の後、特別顧問の福川伸次氏((財)機械産業記念事業財団会長、元通産省事務次官)、講師の渡邊五郎氏(森ビル(株)特別顧問、元三井物産(株)副社長)から講話を頂きました。

福川氏は経営はアートであり、経営者は視野を広げて世の中の動きを注視しなければならない、とのお話を頂き、韓国サムスン電子の先進的な取り組みをご紹介頂きました。渡邊氏からは、“志”は美しい日本語である。人生を真面目に生きるということは、冒“検”し続けることである、と経営者の心構えをご披露頂きました。

初対面で緊張気味の塾生達も、塾長・講師を囲んでの歓談や、塾生同士の歓談が進むにつれて徐々に打ち解け始め、襟を脱いで大いに盛り上がりました。

塾生からは、「人生の達人である“本物”の講師陣のお話を直に聞き、意見交換することが出来て大変刺激になった」、「初回の今日だけで十分に元をとった」、「次回以降の講義や合宿が楽しみ」といった声が上がりました。